（２行空け）

サンプル様式

標題（18P ＭＳゴシック体）

副題（14Ｐ　ＭＳゴシック体）※副題がない場合は空白行とする．

（１行空け）

田中　太郎　　中村　花子　　　　　　　　　　　鈴木　次郎（12Ｐ　ＭＳ明朝体）

　学芸大学　東京学芸大学　学芸大学大学院教育学研究科院生（12Ｐ　ＭＳ明朝体）

（１行空け）　　　　　　　　　　　　　（**氏名・所属は右そろえ、氏名の間は１字あける）**

要　約

（１行空け）

要約本文（MS明朝体10.5ポイント）□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

（１行空け）

キーワード（10.5ポイントMSゴシック体）：MS明朝体10.5ポイント（3つ以内で合計15字程度）

（１行空け）

１．はじめに

原稿の書式はA4 判の縦置き横書きとし，22 字（字送り10.35p）42 行（字送り16.8p）の2 段組で作成する．別紙の書式に従って執筆する．原稿を作成する際は，必ず，ホームページ掲載の所定のテンプレートをダウンロードして使用すること．

本文のフォントは，MS 明朝体10.5 ポイント，見出しはMS ゴシック体10.5 ポイントとする．句読点は「，」と「．」を用いる．英字についてはTimes New Roman を使う．原稿をそのまま印刷する都合上，余白の長さ（上30mm，下18mm，左右20mm）についても厳守すること．

(1) 個々の規定について

　以下では，原稿全体に関わる諸注意が10項目にわたって説明している．必ず，熟読した上で原稿の執筆を行うこと．

① 標題

標題は40 字以内とする．副題がある場合，副題は30 字以内とする．また，標題はMS ゴシック体18 ポイント，副題は14 ポイントとする．論文の標題は，日本語で記す．

② 要約

要約は460 字（46 字10 行）以内とし，研究の目的，方法，及び主な結果が分かるように簡潔・明瞭にまとめる．

③ キーワード

キーワードは3 つ以内とし，合計で15 字程度とする．

④ 文体

　日本語の文体は「である」調とし，常用漢字ならびに現代かなづかいを用いること．

⑤ 見出し番号

　章，節，項は番号と標題をつけ，系統だてて配列する．見出しの番号は，次の順とする．

章の見出し番号：１，２，…

節の見出し番号：(1), (2), …

項の見出し番号：①，②，…

　また，章と章の間は必ず1行空けること．

⑥ 表・図について

　表・図の番号は，それぞれ，表1，表2，…，図1，図2，…のように通し番号をつけ，表や図の標題とともに入れる．その際のフォントはMSゴシック体とする．また，表の通し番号と標題は表の上側に書くものとする．

表1 文章題のタイプと正答率（%）の経年変化

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 問題 | 特徴 | 小３ | 小４ | 小５ | 小６ |
| Q1 | 加法型 | 60 | 65 | 70 | 75 |
| Q2 | 減法型 | 50 | 55 | 65 | 70 |
| Q3 | 混合型 | 40 | 45 | 50 | 55 |

また，図の通し番号と標題は図の下側に書くものとする．

|  |
| --- |
| 除法の問題解決において，児童Aが書いた図 |

図1 児童Aが解決において書いた図

冊子体を印刷する際には，86%に縮小するので，縮小した後でも十分読める大きさを確保するようにする．

⑦ 引用・参考の仕方

文章を引用する場合には，引用部分を括弧「 」で囲んで引用の部分が分かるようにし，そのあとに，括弧（ ）を用いて著者と発行年と引用ページを入れる．引用ではなく参考の場合には，参考部分の後に，括弧（ ）を用いて著者と発行年を入れる．

[引用の場合]「…である」（川田，1999，p.4）．

[参考の場合] …であった（山田，2000）．

⑧ 注，謝辞及び引用・参考文献の記載形式

　注は引用・参考文献の前に位置付けること．謝辞がある場合には，謝辞，注，引用・参考文献の順にする．形式は特に問わないが，注の対応関係が分かるように記載すること．また，フォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない．

引用・参考文献は，論文の末尾にまとめて示す．引用・参考文献のフォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない．個々の具体的な書式については，「論文執筆における引用・参考文献の記載方法」を参考にすること．引用・参考文献の記載順序は，著者の姓の英文標記に基づいてアルファベット順とする．

⑨ 英文での原稿執筆について

　以下に留意の上，執筆する．まず，日本語バージョンの執筆要領を原則とする．なお，本文の基本フォントはTimes New Roman の12 ポイントとする．次に， 2 段組は行わずに執筆する．なお，余白等は日本語バージョンに従う．また，1頁の行数は日本語バージョンと同様に42 行とする．要約は，日本語バージョンに従って，その部分を日本語で作成する．最後に，論文の標題は，英語で記す．なお，日本語については，論文の中ではなくオンライン投稿システムに入力すること．

⑩ 書式逸脱の場合

　書式の改変は一切認められない．特に，フォントの大きさ及び行間の変更については，注意すること．本文はもちろんであるが，授業中のプロトコル（トランスクリプト）等の逐語データや，図や表の標題，そして表中の文字のフォントの大きさを小さく変更したり，行間を詰めたりすることは認めないので，十分注意すること．また，図は必ずスクリーンショットからペイントで編集する等して図として貼り付けること．図や表について，2段組の一方の段に収まらない場合は，2段分使用しても構わない．

　上記①〜⑩の要領に従っていない場合は，その時点で「不採択」と判定される場合があるので注意すること．

２．引用・参考文献の書き方

一行目は，行の先頭から書き始め，二行目以降は2文字空けて書くこと．

(1) 英文（欧文）文献の場合

英文（欧文）文献の場合は，APA スタイルに従うこと．以下に簡単に示しているが，詳細は次の書籍を参照されたい．

アメリカ心理学会(APA)（2011）．APA論文作成マニュアル［第2版］（前田樹海・江藤裕之・田中建彦訳）．医学書院．

① 単行本（著書）

著者名 出版年（西暦）．書名（イタリック）．出版場所：出版社．

Lewis, C. (2002). *Lesson Study: A handbook of teacher-led instructional change*. Philadelphia: Research for Better Schools.

② 単行本（分担執筆）

著者名 出版年（西暦）．章等の標題．編集者名，書名（pp. 掲載開始ページ－掲載終了ページ）．出版場所：出版社．

Niss, M. (2008). Perspectives on the balance between applications and modelling and ʻpureʼ mathematics in the teaching and learning of mathematics. In M. Menghini *et al.* (Eds.), *The first century of the International Commission on Mathematical Instruction* (pp.69-84). Rome: Enciclopedia Italiana.

＊ 編集者名と書名の間はカンマで区切り，その他はピリオドで区切る．

③ 学会誌・学術雑誌等

著者名 出版年（西暦）．論文名．学会誌名（イタリック），巻・号，掲載開始ページ－掲載終了ページ（pp.はつけない）．

Pepper, D. (2011). Assessing key competences across the Curriculum - and Europe. *European Journal of Education*, *46* (3), 335 - 353.

＊ 学会誌名と巻・号の間，巻・号と掲載開始ページの間はカンマで区切り，その他はピリオドで区切る．

(2) 日本語文献の場合

① 単行本（著書）．

著者名 出版年（西暦）．書名．出版社．

島田茂（1977）．算数・数学科のオープンエンドアプローチ－授業改善への新しい提案－．みずうみ書房．

ビショップ, A. J.（2011）．数学的文化化－算数・数学教育を文化の立場から眺望する－（湊三郎訳）．教育出版．

② 単行本（分担執筆）

著者名 出版年（西暦）．章等の標題．編集者名，書名（pp. 掲載開始ページ－掲載終了ページ）．出版社．

杉山吉茂（2010）．数学教育本質論．日本数学教育学会編，数学教育学ハンドブック（pp.18-29）．東洋館出版社．

＊ 編集者名と書名の間はカンマで区切り，その他はピリオドで区切る．

③ 学会誌・学術雑誌等

著者名 出版年（西暦）．論文名．学会誌名，巻(号)，掲載開始ページ－掲載終了ページ（pp.は

つけない）．

日本数学教育学会教育課程委員会（2016）．学習指導要領算数・数学科改訂に向けた教育課程論の展開．日本数学教育学会誌， 98(1)，11-44．

＊ 学会誌名と巻・号の間，巻・号と掲載開始ページの間はカンマで区切り，その他はピリオドで区切る．

(3) Webサイトからの引用の場合

サイトのURL 及び最終確認日を記載する．

国立教育政策研究所（2016）．平成28 年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校数学】http://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/report/16middle/16math/（2017.6.18 最終確認）

３．表および逐語データの書き方の例

　最後に，表の書き方，逐語データの書き方に関して例を示しておく．

(1) 表の書き方について

　文字を小さくせずに，1段に収まる場合，表1のように表を書くこと．

表1 文章題のタイプと正答率（%）の経年変化

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 問題 | 特徴 | 小３ | 小４ | 小５ | 小６ |
| Q1 | 加法型 | 60 | 65 | 70 | 75 |
| Q2 | 減法型 | 50 | 55 | 65 | 70 |
| Q3 | 混合型 | 40 | 45 | 50 | 55 |

　表2のように文字を小さくして一段に収めている場合には，冊子体の製版において86%縮小した後に十分読める大きさを確保できないため，こうした文字を縮小した書き方は認められない．発表集録に掲載されないことがあるので，注意すること．

表2 文章題のタイプと正答率（%）の経年変化

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 問題 | 特徴 | 小３ | 小４ | 小５ | 小６ | 中１ | 中２ | 中３ |
| Q1 | 加法型 | 60 | 65 | 70 | 75 | 80 | 85 | 90 |
| Q2 | 減法型 | 50 | 55 | 65 | 70 | 75 | 80 | 85 |
| Q3 | 混合型 | 40 | 45 | 50 | 55 | 60 | 65 | 70 |

　もし2段組の一方の段に表が収まらない場合は，表3のように2段分使用すること．

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 表3 文章題のタイプと正答率（%）の経年変化   |  |  |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | 問題 | 特徴 | 小３ | 小４ | 小５ | 小６ | 中１ | 中２ | 中３ | | Q1 | 加法型 | 60 | 65 | 70 | 75 | 80 | 85 | 90 | | Q2 | 減法型 | 50 | 55 | 65 | 70 | 75 | 80 | 85 | | Q3 | 混合型 | 40 | 45 | 50 | 55 | 60 | 65 | 70 | |

(2) 逐語データの書き方について

　逐語データは，文字を小さくせず，行間を詰めず，次のように書くこと．

T: どの三角形とどの三角形が合同かな？

S: これとこれかな？

T: それは何故ですか？

S: えっと，切って重ねたらピッタリになりそうだから．

　文字を小さくしたり，行間を詰めたりする次のような逐語データの書き方は，発表集録を作成する際に，書式が崩れる可能性があるため，認められない．発表集録に論文が掲載されないことがあるので注意すること．

|  |
| --- |
| T: どの三角形とどの三角形が合同かな？  S: これとこれかな？  T: それは何故ですか？  S: えっと，切って重ねたらピッタリになりそうだから． |

図2 よくない例１(行間を詰めている場合)

|  |
| --- |
| T: どの三角形とどの三角形が合同かな？  S: これとこれかな？  T: それは何故ですか？  S: えっと，切って重ねたらピッタリになりそうだから． |

図3 よくない例2 (文字を小さくしている場合)

以上，よろしくお願いいたします．